

愛ランド通信

～人と動物の共生を目指して～ 平成30年度夏号

犬&猫の飼い方 注意情報

ノミ、ダニ・フィラリア症・熱中症

気温が高くなるこれからの季節、気を付けよう！

ノミ、ダニ・フィラリア症
寄生・感染するとどうなる？
ノミ、ダニ 吸血による貧血やアレルギーによる皮膚炎になります。また多くの病原体を媒介するため命をおびやかす病気にかかる危険もあります。

フィラリア症 感染初期は症状はほとんどありません。咳が出る、食欲不振、元気がない、お腹が膨らんだ、尿に血が混じるなどの症状が見られたらフィラリア感染の疑いがあります。放置すると死にいたることもある重大な病気です。すぐに動物病院で受診しましょう。

※猫のフィラリア症 フィラリアに感染するのは犬だけではなく、猫においては主に肺に障害を引き起こします。ただし感染の診断が難しく、咳、呼吸困難、嘔吐などの症状が出てきたときは生命が危険な状態です。健康そうにみえても突然死亡することもあります。今のところ治療法は確立されておらず、感染しないように予防することが最善の対策です。

事前の対策で予防できます
ノミ、ダニ ノミ、ダニは気温が高くなると活発に活動します。外出の際に寄生されるおそれがあるので、お出かけから帰ったら念入りにペットの体を確認しましょう。頭、耳、目のふち、お腹、足の指の間、背中、しっぽなどについていることが多いので注意しましょう。見つけたら無理に引きはがさずに病院へ。予防方法としてはシャンプーやブラッシングで身体を清潔に保つことのほか様々な予防グッズ、また予防薬もあります。内服薬はノミ、ダニが活発な時期に毎月1回与えます(薬によって投薬時期の長さは異なります)。

フィラリア症 フィラリアは蚊が媒介します。寄ってくる蚊をすべて避けることは難しいので、一般的には薬の投与で予防します。薬には1年間有効な注射と、蚊の活発な時期に与える内服薬があります。同時にノミ、ダニの予防効果がある薬もあり、動物病院で処方してもらえます。

熱中症
熱中症になるリスクは人間以上、死亡する恐れも！
犬や猫は人間のように全身で汗をかくことができませんので、熱が体にこもりやすく、体温調節が苦手です。気温だけでなく湿度が高くても熱中症の危険度は増すので湿度の確認もしましょう。炎天下の車の中や散歩中はもちろん、屋内でも起こりやすく注意が必要です。苦しそうに呼吸をしている、体を触ると熱い、ぐったりしている等の症状がみられたら危険な状態です。ペットが熱中症になったときはまずは一刻も早く体温を下げる処置を行います。

応急処置 ※処置後はすぐに病院で受診してください。
●涼しい場所へ移動する。エアコンなどで室温を下げる。
●水が飲めそうなら飲ませる。誤嚥(ごえん)に注意する。
●身体に水をかける(ただし冷水は×。症状の悪化のおそれがあります)。
ペットの健康を守ることは飼い主の責任です。是非、予防対策を。(A.N)

インタビュー

センターから譲渡されたワンコ。その後、どうしていますか？ 家族に迎えて

小さい頃から動物が好きでいつか動物と一緒に暮らしたいと思っていた加奈さん。迎えるならうちのいない子を引取りたいと、まずはセンターの譲渡会に参加されました。
譲渡の申し込みをしてから約半月後、センターから一花ちゃんを紹介され、すぐに譲り受けることに決めたそうです。「すごくおとなしいんです。」と話す誠さん。一花ちゃんを見るご夫妻の目が愛情にあふれていて、見ているこちらも幸せな気分になりました。
フィラリア陽性だったため現在も治療中とのことですが、その後病院での健診で乳腺に腫瘍があることが発覚。良性か悪性かは手術しないとわからないとのこと、推定10歳という年齢と、手術のリスクやその後の負担などから、手術するかどうかとても悩まれたそうです。「いろんな考えはあると思いますが、少しでも楽しく幸せな時間を一緒に過ごしたい」と手術はせず様子を見るこ

一緒に濃い時間を過ごしたい

昨年末に柴犬の一花(いちか)ちゃんを迎え入れた、古家さんご夫妻(誠さん、加奈さん)に取材しました



▲古家さんご夫妻と一花ちゃん。これからお幸せに！
とに。
なでられることが好きでおとなしくかわいい一花ちゃん。実はとてもくいしんぼうで、好奇心旺盛なんだとか。「まだ数カ月なのにもう1年くらい一緒にいるみたい。」と加奈さんがおっしゃるほど、すっかり家族の一員になった一花ちゃん。素敵なお夫妻に迎えられてよかったね！(atk)

編集後記

明日、突然やってくるかもしれない災害に今の自分ではまだ対応できないことに痛感しました。物を備えるだけではなく、いざというときに支え合い助け合えるように、人とのつながりも大切にしたいです。取材を通じて、同行避難が理解してもらえるように多くの方が動いておられるのを知ってとても嬉しく思いました。(yoshi)

本誌は「京都市人と動物が共生できるまちづくり基金」からも出資していただいています。まちづくり基金に寄附していただいた方のお名前はホームページにて公開しています。なお、寄附の方法についても、こちらのホームページでご覧いただけます。

センターへのアクセス

- 近鉄十条駅から徒歩5分
 - 京都市営地下鉄烏丸線 十条駅から徒歩15分
 - 京都市営バス 十条大宮停留所から徒歩5分
- ※無料駐車場はございません

〒601-8103
京都市南区上鳥羽仏現寺町11番地
電話：075-671-0336
FAX：075-671-0338
開所時間：午前9時～午後5時
休所日：木曜日(祝日の場合は翌平日)
年末年始



▼メス 10歳前後 施設名:しょうこ



▼オス 約6カ月齢 施設名:はつ



▼オス 9歳 施設名:トロ



▼オス 約2カ月齢 施設名:ゆきお



▼オス 10歳前後 施設名:ジョージ

特集 災害時 愛するペットを守るために

近年、台風や地震、ゲリラ豪雨など自然災害が多発しています。災害が発生したとき、人も動物もパニックになってあわてることのないように、平常時からペットと避難するための準備と心構えが大切です。一緒に避難するための備えは、特別なことではありません。避難所へのペットの受入れを理解してもらえるよう、飼い主の責任として、普段からきちんとしつけをするなど、適正飼育に努めておくことが避難の備えにもなります。どんな考えで行動すればいいの？どんな備えが必要なの？避難場所は？など、災害時のことを事前にしっかり考えておきましょう！

基本は同行避難

災害時に飼い主とペットが離れ離れになると、ペットの徘徊により、人を噛んでしまう事故や環境衛生の悪化で感染症が蔓延する原因になってしまいます。また、不必要な繁殖を防止するためにも避妊・去勢手術を実施しておくことも重要です。
愛するペットの命を守るために、たとえ一時的な避難であっても一緒に避難するようにしましょう。避難所では管理者の指示に従い他の避難者に迷惑をかけないようにしましょう。動物の苦手な方やアレルギーを持っている方への配慮が必要です。
避難所では飼い主が持参したキャリーやケージに入れて飼育することが多く、平常時から慣れさせておくことが必要です。避難生活はペットにとって大きなストレスとなります。普段からしつけや健康管理をしておくことで災害時のストレスも軽減されます。
環境省は同行避難を推奨していますが、京都市で実際にペットとの同行避難を受け入れている避難所はまだ数十カ所しかありません。ご



▲おりたたみケージは便利

自身がお住まいの地域の避難所では同行避難が可能かどうか確認するなど、ペットの避難計画を考えておきましょう。
飼い主がやむを得ない理由で一緒に避難できないことは十分にあり得ます。同行避難が不可の場合やペットのストレスも考慮し、親戚、知人などに預けることも考えておきましょう。
地域の防災訓練に参加し、状況を把握しておくとともに、ペットの避難についての相談・提案と、十分な話し合いにより、災害時におけるペットの受入のためのルール等を検討しておくことが何よりの要です。
普段からペットを飼っていないご近所の方と飼い主もペットも顔見知りになってコミュニケーションをとりましょう。

特集 災害時 愛するペットを守るために

日ごろからの備えと心構え



避難場所では「ここはどこ？」って不安から吠えてしまうこともあるから、ケージをかこってくれたり周りを見えなくすると安心するよ

クレートトレーニングで普段からケージが好きになって、合図をくれたら入れるようになったよ！僕のお城～狭いけど安心出来るんだ

感染症の発生を防止するため、日頃からノミやダニなどの寄生虫の駆除や予防はしておいてね

一緒に映ってる写真も用意しておいたら迷子になったとき私の大きさがわかるよ。私の飼い主である証拠にもなるんだよ



僕はブラッシングが大好きなんだ～綺麗好きだから清潔にお手入れしてね！毛が飛び散っても僕はお掃除できないからお掃除よろしく

トイレも合い言葉で決まった場所に出来るように頑張るね

避難が長引くときは、預かってくれる知人がいたらその人をお願いしてね。忘れないで健康手帳も渡してね

大事な飼い主さんの連絡先、かかりつけ動物病院も書いておいてね

手帳には名前、年齢、健康状態、予防注射や避妊・去勢済み、マイクロチップの番号、いつも飲んでるお薬も書いておいてね。私の大好きなご飯やおやつの種類もお願いね

僕は誰と一緒に避難したらいいの？

ペットを複数飼っている人は誰がどの子を手を離れていくか決めておかななくては

大型犬や病気のペット、自力で動けない高齢ペットを飼っている場合は、カートなどによる移動手段を考えなくちゃね

家族の他にも手伝ってくれるご近所さんや飼い主仲間にあらかじめお願いしておくことも重要だね

うん！お願いしてもらおうね

飼い主さんとはぐれたらどうしよう？迷子になったらひとりでお家に帰れない…

身元がわかるものを付けているといいよ。犬は鑑札や注射済票、猫には迷子札を装着しなげや

マイクロチップも装着してほしいな。もし、避難の際などにびっくりして逃げてしまったり首輪が外れても、飼い主さんの元に戻れる可能性が高くなるからね

情報登録料1,000円だけで犬と猫のマイクロチップ装着を施術できる所もあるみたいだよ～

でも、私恐がりだからでちょっと不安だな…かかりつけの獣医さんとよく相談して装着してもらおう。ありがとう！

避難グッズはそろってる？リュックの中身をチェックしてみよう！



- 使いたないケージ、キャリー、ハーネス、敷物・療法食・薬・食器
- フード・水(できれば1週間分)○予備の首輪・リード(伸びないもの)
- 健康手帳○ペットの写真○おもちゃ○ブラシ○ペットシート○排泄物処理用具
- ビニール袋(大・小・チャック付き)○ガムテープ○タオル(大・小)
- ブランケット○油性マジック○ウエットティッシュ○靴(犬)○猫砂
- 洗濯ネット(猫)○エリザベスカラー○携帯カイロ



優先順位を決めて入れるのがコツだよ。



今回、記事の作成にあたり、認定NPO法人アンビシャスさんにご協力いただきました。

命をつなぐためにも平常時からの訓練、備えは大切なんだと教えていただきました。災害時、ペットを安心させるためには飼い主が日頃からペットの行動も考えた十分な準備しておくことが重要です。しつけはペットの安全確保のみならず、災害時のストレスを軽減させ、私たち自身や周囲の方々への安全・安心の確保にも重要です。京都動物愛護センターでも犬のしつけ教室を行っています。ぜひ、参加してみてください。

ペットを守るのは飼い主だけです。避難させるのも世話をするのも飼い主の責任です。今一度、防災対策をご家族で話し合ってみてください。(yoshi)



▲すぐに持ち出せる場所に保管を

ご主人様に待って！って言われたから賢く待ってるよ。



▲訓練を重ねることで待てる習得

しつけ

健康管理

移動

所有者明示

今までありがとう！

センターでこんなことやってます！

初めての卒業式&基調講演「災害時に起きた事」

平成27年4月の京都動物愛護センター開所前から京都府・市と協働で活動してきたボランティアスタッフ1,2期生の卒業式が、3月17日(土)に行われました。

名誉センター長の杉本彩さんから、感謝状と記念品が卒業生1人1人に感謝の言葉と共に手渡されました。記念品は4期スタッフがデザインした素敵なトートバッグ。緊張の中、記念品を受け取り忘れる人が続出して一気に場が和み、晴れやかで、とても良い雰囲気での卒業式になりました。

引き続き、杉本さんによる講演「災害時に起きたこと」が行われ、

東日本大震災時に直面したご自身の実体験が語られました。震災直後の様々な制限がある中で、効率的な救援活動ができず、多くの被災動物が飼い主と再び会うことがないまま命を落としてしまい、その変わり果てた姿の写真に思わず目を背けてしまいました。講演後、卒業生から杉本さんへの質疑応答の時間が設けられ、私たちボランティアスタッフと同じ目線で保護活動への思いを語っていただきました。



▲貴重な男性ボランティア2名も卒業

「実際に災害が起こった時に必要なのは“あなた自身のマンパワー”です。」と熱く語られた杉本さん。その言葉は卒業生、そしてスタッフ全員に向けたエールのように感じられました。

センターが開所して初めての卒業式。とても特別な一日になりました。(4期ボランティアスタッフT.O)



▲質疑応答。その答えに興味津々の卒業生



▲卒業式には3期、4期ボランティアも参加。



みんな大好き。たくさんの癒しをありがとう。

ボランティア2期生 六車多鶴子さん & リオちゃん(キジトラ16歳メス)・ヤマトくん(黒猫5歳オス)・コリンちゃん(キジトラ5歳メス)・アンジーちゃん(サビ猫3歳メス)・元気くん(ゴールデンレトリバー8歳オス)にインタビュー



▲みんな並んでひなたぼっこ気持ちいいね。

六車さんご夫妻が初めて猫を家族に迎えたのは今から16年前のこと。ご実家のお母さまを亡くした六車さんを励まそうと、ご主人が里親募集のサイトで選んだのがキジトラの子猫でした。ご主人のブラジル好きもあり「リオのカーニバル」から名前はリオちゃんになりました。リオちゃんのおかげで乗り越えられたことがいくつもあったそうです。

その後十年以上たって、ご自宅の室外機の下で野良猫が産んだ2匹の子猫を保護。1匹は黒猫で「クロネコヤマト」からヤマトくん、キジトラのもう1匹は「小さなリオ」という意味でコリンちゃんと呼びました。はじめはなつかず、流血沙汰もありましたが、今では抱っこをせがむ甘えん坊に。

その2年後、お隣の家の庭で母猫とはぐれてない子猫を保護。とてもおしゃべりさんののだとか。ご主人がアンジェリーナ・ジョリーのファンだからアンジーちゃんと呼びました。

その翌年には元気くんの里親にもなり、六車家はにぎやかな大家族に！犬や猫同士の相性が合うか不安はなかったですか？との質問に、「家族になる」と決めればそれが犬や猫たちにも伝わり、自然に1つの和になりました。」と笑顔で答えてくれました。



▲リオちゃん



▲ヤマトくん ▲コリンちゃん ▲アンジーちゃん ▲元気くん

「5匹だから愛情が1/5に減るわけではなくて5倍になるんです。私は体のことを気遣うお母さんでもあり、共同生活を束ねる大家さんでもあると思っています。猫たちと一緒に昼寝したり、空を眺めたり、元気のニコニコウハウハした笑顔を見たりすると癒されます。みんな大好きなので、ともにいる時間を楽しみたいと思います。」と語ってくれました。

これからも仲良くお幸せに！(Jun)